



田んぼわらしの ささやき

田んぼ 10 年だより

第3号

2015.8.20 発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称:田んぼ10年)ニュースレター
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

目次

ラムサール COP12 参加報告

1 COP12での(株)アレフの取り組み	(株)アレフ 橋部 佳紀	1
2 三番瀬から田んぼの生物多様性、そして世界へ	三番瀬を守る署名ネットワーク 織内 勲	2
3 大草原の国・ウルグアイ	諫早湾しおまねきの会 大島 弘三	2
Series 各地の活動紹介「かわごえ里山イニシアティブ」&「ゆうまぶどうの樹ほっこり農園」&「いきものたんぼプロジェクト」...		3
水田部会からのお知らせ		4

* * * * *

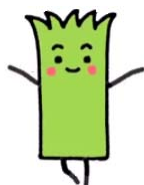
ラムサール COP12 参加報告

2015年6月にウルグアイのプンタ・デル・エステで開催されたラムサール条約 COP12で、日本の条約湿地は4か所増え、計50か所になりました。しかし、2010年に環境省が発表した条約湿地潜在候補地172か所のうち、まだ160か所もの潜在候補地が未登録のまま残っています。ラムネットJは「条約湿地を100か所に」を目標に、さらに活動を続けていきます。



COP12では、「すべての湿地の保全及びウィズユース」を条約の使命とする戦略計画(2016~2024)など、16の決議が採択されました。ラムネットJでは、水田決議のフォローアップとしての田んぼ10年プロジェクトを中心に、環境省・農水省・JICA等との協働でサイドイベントを開催し、展示などを実施しました。後日、田んぼ関係の国際的な活動を中心とする報告会を開催する予定ですので、詳しい報告はそちらをお待ちください。3号では、COP12に参加した皆さんの報告を特集しています。

報告1 「COP12での(株)アレフの取り組み」 (株)アレフ 橋部佳紀



報告1 「COP12での(株)アレフの取り組み」 (株)アレフ 橋部佳紀

弊社はCOP9での蕪栗沼・周辺水田のラムサール湿地登録に感銘を受け、生きものと共生するお米をレストラン「びっくりドンキー」で使用したいと考え、ふゆみずたんぼの研究、実践を経て、現在は「生きもの豊かな田んぼ」の取り組みを進めています。COPへの4回目の参加となる今回は、弊社のお米の取り組み紹介と、オリジナルアニメ「ふゆみずタンゴ」を通じた生物多様性に貢献する水田の普及を目的に参加しました。ラムネットJのブースでの取り組みを紹介させていただくとともに、環境省、農水省、ラムネットJ共催の水田決議のサイドイベントで、「田んぼ10年プロジェクト」の企業の取り組み例として報告させていただきました。

サイドイベントのチラシに「ふゆみずタンゴ」のダンスパフォーマンスもあるよと書いてもらい、ブースでは小型モニターで「ふゆみずタンゴ」を再生しました。ウルグアイはタンゴの本場アルゼンチンのお隣とあって、ラテンの血が騒ぐようで、モニターを見た人が結構サイドイベントに来てくれました。時間が延びたのでパフォーマンスは割愛...と司会の柏木さんが言いかけると会場から「え～」という声が挙がり、ラムネットJの後藤さんと無事披露させていただきました。

エクスカージョンではウルグアイの稲作地帯を訪問しました。ウルグアイの稲作は、牧草地に直まきしてから等高線に沿って畦を作り、2年くらいお米を作ったら土地がやせるので、また6年くらい牧草地に戻すの

が一般的な方法と聞きました。現地は初冬なので田んぼに稲は植わっていませんでしたが、田んぼの様子はアジアのそれとはかなり違っており、アジアの田んぼだけが田んぼではない、という貴重な経験をさせていただきました。更に驚いたことに、スペイン語で“tambo”は酪農の牧場のことなのだとか！

地球の裏側への片道30時間近いフライトで帰国後腰が大変なことに。今回はアラブ首長国なのでホッとしています。



TAMBO de TANGO



報告 2 「三番瀬から田んぼの生物多様性、そして世界へ」

三番瀬を守る署名ネットワーク 事務局長 / NPO バランス 21・谷当里山計画 理事 織内 勲

6月1～9日、ラムサール COP12 に参加したので感想も含めて報告します。開催地は南米ブラジルとアルゼンチンに挟まれた大西洋岸のウルグアイで、期間中 NGO 関係の会議、7日(日)には、この国の豊かな自然に触れるエクスカージョンもあり、有益な旅でした。



イランのブースの皆さんと一緒に

三番瀬とラムサール条約との関わり

1991年「日本湿地ネットワーク」が三番瀬の埋め立て反対とラムサール登録を提言したのがスタート、96年には署名ネットワークも東京湾埋立て反対署名活動を目的に結成され、更にラムサール登録署名活動も進めて今日に至っています。

しかし、千葉県は2001年以降、堂本・森田2知事の計14年を三番瀬の事業に費やしなから、今尚、環境保全の県条例も、ラムサール登録も出来ていません。我々は以上の背景の下、2008年 COP10～2012年 COP11のラムサール登録に向け14万署名を2012年4月千葉県に提出。今回の COP12 参加は、2018年 COP13(ドバイ)での登録を目指すロビー活動と署名収集(100取得)が目的でした。

田んぼ生物多様性の国際化は COP12 で本格的にテイクオフ

生物多様性重視の観点から「2005年蕪栗沼・周辺水田」が初めてラムサール湿地として登録され、引き続き2008年韓国 COP10での日韓共同提案の水田決議(X.31)採択。さらに2010年の愛知・生物多様性 COP10での展開なども加わり、田んぼの生物多様性が注目され始めました。この間「NPO ラムサール・ネットワーク日本」の発足と国内外での精力的な活動は目覚ましいものがあり、今回の COP12でも、2日の NGO・WWN(世界湿地ネットワーク)の会議と連日の早朝会議、8日の COP10 水田決議(X.13)のフォローアップ関連サイドイベントも、ラムネット J 柏木・呉地・後藤トリオのご奮闘で、大成功であったと感じています。田んぼへの中南米、アフリカへの好感触と、フェアウェルパーティー直前までブラジル・アルゼンチン女性二人のラムネットブースでの真剣な打合状況が強く印象に残り、今後の確かな田んぼの生物多様性の世界中への広がりを確信しました。



エクスカージョンで訪れたマルドナド・ストリーム



報告 3 「大草原の国・ウルグアイ」

諫早湾しまねきの会 大島弘三

ウルグアイには1か月余り滞在した。会議がはじまったのが6月1日。会議の始まる2週間前、早割の航空機チケットでパリ経由、30時間でウルグアイのモンテビデオに到着した。こちらは秋から初冬の季節。それでも若者はTシャツで暖かく、冬が来ているという感じがしない。

ここに来てまず困ったのが、言葉が通じない。現地の皆さんはスペイン語を喋っているから、自分には全く解らない。こちらが英語で喋っているつもりでも、相手に通じない。高校生に話しかけても、「学校で英語の授業が無い」と全くコミュニケーションの手段が無い。タクシーに乗った時は、果たして行先が伝わっているのか。到着するまでハラハラ・ドキドキ。



大草原に放牧されている牛

ラムサールの会議は英語とスペイン語。授業で習ったハズの英語では、全く聞き取りが出来ない。NGOのサイドイベントでは、柏木さんの通訳でどうかしのいた。諫早の現状を訴えたつもりだが、まさか「裁判所の判決に総理大臣が言うことを聞かない。ましてや国民の税金で罰金を払っている。」とは想像もつかない、というのが実情。開発途上国の独裁者ならあり得る話、ではあっても超特急の新幹線が走る、先進国の日本でもあり得るのだろうか。



話し合いの様子

政府との良好な信頼関係でラムサール登録を維持している海外の NGO に、諫早の実態を理解してもらうには、通常の英語能力だけでは済まない。現実には考えられない、皆さんに事実を説明する能力も必要である。



各地の活動紹介

登録会員の活動をご紹介します。

埼玉県

かわごえ里山イニシアティブ

増田 純一

「かわごえ里山イニシアティブ」では、みんなで連携して無農薬、無化学肥料による米作りを支援し、生きものの賑わいを取り戻す田んぼ活動を行っています。

今年度の大きな企画の1つとして「かわわ（川越の輪）シェア田んぼ」を立ち上げました。これは、小規模の田んぼをみんなでシェアして自分たちの食べる無農薬のお米を自給しようという取り組みで、非農家によるこのような取り組みが休耕田をなくし、生きもの豊かな田んぼを取り戻す解決策の1つになるのではないかとという試みです。6月7日の田植えイベントでは「湿地のグリーンウェイブ 2015」に参加し、会員や一般参加者を含め50名が田植えを楽しみました。横浜や東京からの家族、ドイツ人ファミリーの参加もあり賑やかな田植えとなりました。

この他、福田地区の2反の田んぼでは、はるみず田んぼを利用した環境保全型による『マコモ』の栽培を始め、このマコモを川越の新しい農産物にしようという挑戦も始まりました。

このように、生きものの賑わいを取り戻す田んぼ活動で環境豊かな里山を取り戻す第1歩を踏み出すことができ、当会のキャッチフレーズでもあるコウノトリを呼び戻すことも遠い夢ではないでしょう！



福岡県

(有) ゆうまぶどうの樹ほっこり農園

加悦 典子

「田んぼの中がこんなにあたたかいと知らなかった」田植え体験をし、初めて田んぼに足を入れた子どもたちの第一声。

田んぼはいわゆる稲のお母さん。水は羊水。

お母さんはひたすら子どもたちに栄養を与え続けます。水が冷たすぎても、熱すぎても子どもたちが育たないので、いつも暖かく見守ってくれて調整してくれるお父さん（農家さん）に稲の葉の色で信号を出したりします。

時々、虫さんから葉っぱを食べられたりすることもあります。そんな時は、鳥やカエルのお医者さんが飛んできて治療してくれます。

お母さんは毎年、美味しい土をつくるために、発酵菌を増やしながら、来年の元気な子どもたちを待つのです。田んぼの水があたたかいのは、何にも口には出さないけれど毎日見守っているお父さんとお母さんの愛情。

田んぼの体験は、地球というお母さんのお腹の中で行います。初夏は田植え、秋は稲刈り。冬には餅つき、春には苗床づくり。

今年の田植えもよか天気！最高の岡垣町の田んぼからのお知らせでした。



宮城県

いきものたんぼプロジェクト

小野寺 雅之

「松枯れ」と「磯焼け」という異変から地域の自然を復元し守ろうと2004年から「ハチドリ計画」の名のもとに活動を開始。海・山・田んぼに恵まれた自然を活かして、地域の子供たちみんなが参加する取り組みにまで発展させました。その中心的な取り組みが「ふゆみずたんぼ」です。

この田んぼは東日本大震災の津波により被災しましたが、多くのボランティアの方々の支援により復興しました。これを機に、子どもだけでなく地域の大人を巻き込んで、豊かな自然を守り共生するためのプロジェクトとして「大谷いきものたんぼプロジェクト」を新たに立ち上げ、「ハチドリ計画」と連携しながら活動しています。

海・山・田んぼそれぞれの生態系や生物多様性が、水や空気の循環とともに深く強く結びついていることから、豊かな自然が形成され、多くの恵みをもたらしていることを実証していきます。



水田部会からのお知らせ

■ 田んぼ 10 年プロジェクト 新規参加者のご紹介

No.	都道府県		参加者名
82	宮城県	個	鈴木耕平
83	宮城県	個	幕田晶子
84	東京都	個	安藤よしの
85	大分県	団	ひとねる

2015 年～2017 年

田んぼ 10 年プロジェクトの活動 3 年計画概要

「ラムサール条約・生物多様性条約を通じた、水田決議に基づく生物多様性向上のための実践活動の地球規模の推進」計画が 2015 年度地球環境基金助成金の交付が決定しました。

【3 年間の達成目標】

- 田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトへの参加者が 200 団体を超えることを目指す。
- 田んぼの生物多様性向上の取り組みが、広がり、実践が増えることを目指す。
- 田んぼの生物多様性向上の取り組みの重要性の認識が広まり、深まることを目指す。

【2015 年度の具体的な行動計画】

- 田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトの潜在的な参加者のいる地域特性を考慮して、全国（1 回）、地域（2 回）の交流会を開催する。
- ニュースレター（季刊）を発行する。
- プレスリリースを発行し、活動の存在と意義を広く知らせる。

2015 年度の地域交流会（予定）

- 11 月末頃 滋賀県琵琶湖
- 1 月末頃 大分県豊後大野市

2015 年度の全国交流会（未定）

決まり次第お知らせします

活動の足跡

■ 6 月ウルグアイ・ラムサール COP12 サイドイベント

6 月にウルグアイで開催されたラムサール COP12 において、水田決議採択後、どのような取り組みが展開されているのかを検証し、水田決議の効果を測ることを目的として、日本政府と共同でサイドイベントを開催しました。

政府の取り組みとして、日本から環境省と農林水産省から各々の政策展開状況を、韓国環境省国立湿地センターから、韓国における水田政策展開を紹介していただきました。

民間サイドの取り組みとしては、NGO を代表して RNJ より蕪栗沼周辺における田んぼの生物多様性向上の取り組みを紹介、企業の取り組みとして、株式会社アレフから「ふゆみずたんぼ」の取り組みが発表されました。

また、稲作の多いアフリカと南米を代表して、ウガンダとコロンビアより、それぞれの水田の生物多様性向上の取り組みや水田の置かれている状況等について発表をしていただきました。

COP12 でのサイドイベント資料、COP12 プンタ・レポート等はラムネット J の WEB サイトでご覧いただけます。

<http://www.ramnet-j.org/ramsar-cop12/index.html>

2015 年コナギを愛でて食べる会 in 大谷

小さな青い花を付けるコナギとミズアオイは、雑草、厄介ものとして扱われています。この植物は、除草剤に弱く、いわゆる慣行田ではまったく見られません。逆に生えるということは、除草剤を使っていない安全な田であることの証でもあります。

実はこのコナギとミズアオイ、非常に栄養価の高い野菜で、古来より食材として食べられてきているのです。

そこで、今年は気仙沼の大谷の田んぼに於いて、コナギを収穫、調理、試食する会が、8 月 20 日（木）、宮城県気仙沼市大谷公民館に於いて、大谷いきものたんぼプロジェクトとラムネット J の共催により開催されます。

次号からは、PDF で良い…という方は、お申し出ください！

創刊号は、シールの送付がありましたので、紙媒体で送付いたしましたが、次号以降、「PDF でよい」という方は、その旨、ラムネット J 事務局までご連絡ください。

次号からは、PDF でお届けいたします。郵送費および紙資源の削減にご協力ください。

連絡先/事務局



ラムサール・ネットワーク日本
info@ramnet-j.org
FAX:03-3834-6566



田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成 27 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

